

演劇の魅力は、人々にあります！

2019年2月、演出家として19人の市民

と、演劇×自分史公演「旅旅」（ふたたび）を作り上げた有門正太郎さん。稽古を見て驚いたのは、出演者たちが役作りをほとんどしないのに、その人そのものが魅力的だったこと。一人ひとりを輝かせる、有門さんの秘密はどこにあるのでしょうか？

「僕は人が好きなんですね。だから舞台上でも、どうしたら、この人のありのままの面白さを見せられるかな、って考えんです」

そんな有門さんが率いる劇団「有門正太郎プレゼンツ」（通称アリプレ）が、春日井に初上陸します！ となれば、普通の演劇とは、一味違うはず。「アリプレは、すごい舞台技術を駆使するのではなく、客席に唾の飛び距離で、『裸』になつた俳優を見せたい」と思つて立ち上げた劇団です。市民と作るときと、やりたいことは同じ。自分をコントロールできなくなつた時に、人つて面白くなるから（笑）、上手に演じようとする俳優を必死にさせて、面白い状態に持っていく。これが腕の見せ所です！」

全方位に笑いを届ける、それがアリプレ流！

アリプレは、立ち上げ時から一貫して、笑いを追求しています。

「僕は芸人になりたかったし、ドリフが大好き。ちっちゃな子からおじいちゃん、おばあちゃんまで、楽しめるお芝居があるといなと思つたんですね」

春日井で上演するのは、誰もが知る、口ミオとジユリエット。ですが…。

「笑いの要素がめちゃめちゃ入るので、みんながイメージする古典とはかなり違うと思ひます。最近うちの劇団に入った若い子が、好きな人のために死ぬつて、自分の経験値ではまだ理解できない」と言つていて。これはいいテーマだなと思って、「僕は死にます」にも、死にませんにもとれる、死にますんをタイトルにしました。笑つて笑つて笑い疲れて、最後にちょっと考えちゃう、そんな作品になるといな」

みんなの『隣』にある作品を目指して

春日井でたくさんの市民と関わってきた有門さんからは、熱い『春日井愛』を感じます。

「春日井って、北九州と似てると思うんです。人との距離感もそう。最初は人見知りだけど、仲良くなるとガンガン積極的になる感じもね。そして名古屋？いや、隣の春日井市で…。福岡？いや、隣の北九州市で…っていう位置関係にもシンパシーを感じるなあ（笑）。僕は、子どもから年配の方まで、色々な人とワークショップをやつてきたから、自分の作品を作るときも、今まで出会った人たちに、この作品を届けたい、って思うんです。だからこそ、みんなに地続きで、それでいて質の高い作品を目指したい。お芝居を観慣れていない人が見て、面白かった。お腹がよじれた。これだったらまた観たい！』そう言ってくれた

有門正太郎プレゼンツ
アリプレ版
ロミオとジユリエット
僕は死にますん

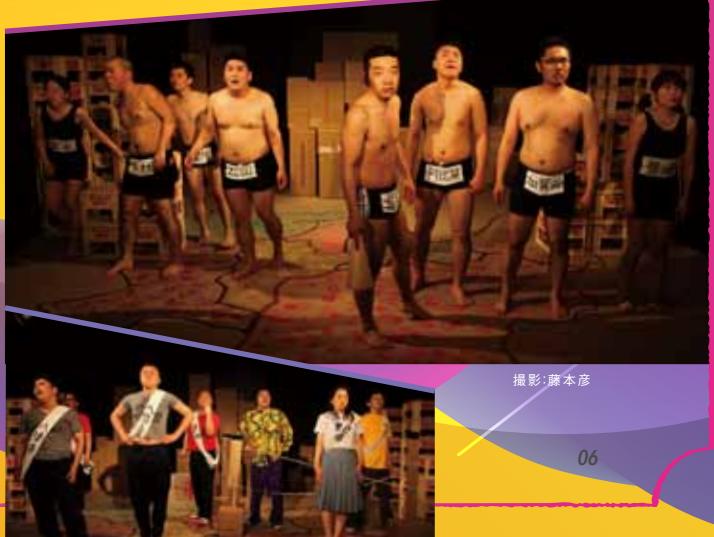
5/10金 19:30～
5/11土 12:30～/15:30～
@春日井市民会館（舞台上）

詳細情報は、裏表紙で

Ticket Guide



アリプレを立ち上げた2人。
有門正太郎さん（左）と、
プロデューサーの加賀田浩二さん（右）



撮影:藤本彦